

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)長岡研修センタ新築工事(研)	階数	地上2F
建設地	京都府長岡京市	構造	S造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2015年4月1日
敷地面積	25,838 m ²	作成者	戸田建設
建築面積	2,006 m ²	確認日	2015年4月8日
延床面積	3,386 m ²	確認者	戸田建設



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.1**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 3.2**

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 3.2**

Q3 室外環境 (敷地内) **Q3のスコア = 3.1**

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.5**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 3.7**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 3.5**

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.5**

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>企業の研修施設として快適な環境と機能性はもちろんのこと、通常のオフィス空間とは異なる「クリエイティブな発想を生み出す場」としての空間作りを行った。敷地の周辺環境を考慮し、階数を2階におさえ、和風の要素を取り込んで、環境配慮建築設計要素でもある大きな庇と再生ルーバーにより外観を特徴付けている。</p>	<p>その他</p> <p>もともと本計画地には、壁・屋根がスレートの既存建物が長い期間建てており、環境的にも今回このような形で更新されることは、「歴史的建造物の保存」とは逆の意味で期待されている計画であると思われる。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>研修室は高音のスライディングウォールにより間仕切りされ、様々な人数の研修に対応可能となっている。外部開口部は出来る限りの大きさを設置する一方で、庇とルーバーにより日射量の抑制を行っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>空間の広さと高さは十分にとり、2階中央のクリエイティブスペースは本建物の中で最も特徴的な空間となっている。両側に居室を配したことで自然採光を確保するため、中央に中庭を設置し、空間をより特徴的なものと</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>設備システムの効率化については高い数値が出ている。自然エネルギーの利用の観点から、2階の中央に大きく中庭を設置し、自然採光・自然通気を得ている。また中庭に植えられる植栽によりクリエイティブスペースへの「さまざまな緑の効果」が期待されている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>鉄骨造を採用し、外壁や勾配屋根、外部ルーバーをはじめ、内部の間仕切り壁も基本的に乾式工法としている。府内産の木材使用部分は内部の化粧ルーバーを中心に、杉・ヒノキなどの針葉樹を選択している。</p>
<p>LR3 敷地外環境</p> <p>研修者のための食堂・厨房が1階に設置されるが、ガスを使用しない「オール電化厨房」であり、燃焼機器による排気の無いことをコンセプトとした設備となっている。外部の表情は庇やルーバーなどにより「彫りの深い」ものとなっており、光害や反射音などへの対応にも</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>長岡京という立地から、低層で勾配屋根を持ち、少々の和風要素を付加した外観は、色彩計画も含め「長岡京市景観条例による景観デザイン審査会の審議を経て「適合済」を取得している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される